

乳 がん に つ い て

乳房には「乳腺」があり、その乳腺に悪性腫瘍ができることで“乳がん”となります。30代後半から増加傾向がみられ、40代後半に乳がん発生のピークがあります。

早期に治療されれば治りやすいがんのひとつですが、治療後10年以上経過しても再発する場合があります。

乳がん検査として、主にマンモグラフィと乳房超音波があります。

マンモグラフィ検査



マンモグラフィは乳房専用のX線撮影装置を使った画像診断法です。しこりとして手に触れない石灰化も鮮明に写し出します。

乳房を圧迫することで、多少の痛みを伴うこともありますが、乳腺の重なりを減らすことや被ばくを少なくして撮影しています。

KKCでは乳房構成を評価に採用しています。

乳房超音波検査

乳房超音波は乳房にゼリーを塗り、プローブ（探触子）をあて、超音波を利用して観察しています。痛みがなく被ばくもありません。

若年者（20～30歳代）は乳腺量が多いため、マンモグラフィでは判別が難しい場合がありますが、超音波検査では判別可能な場合があります。

